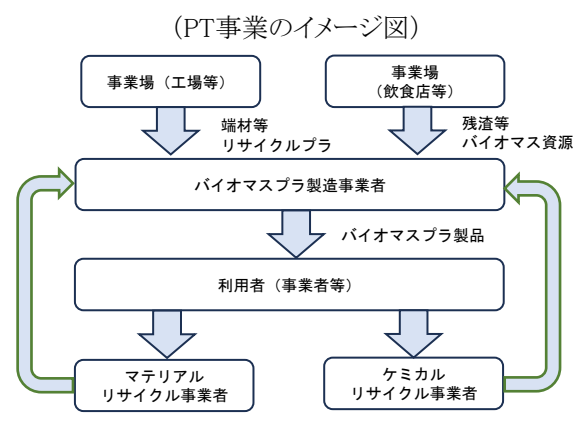


【1 設立趣旨】

あいちサーキュラーエコノミー推進プラン(2022年3月策定)に基づき、脱炭素社会の推進及び地域素材の価値化(マネタイズ)を前提としたバイオマスプラスチック循環利用モデルの具体化に向けて、地域のバイオマス原料を活用したバイオマスプラスチック製品の普及拡大を促進することを目的として設立。

<メンバー(12事業者)> アサヒユウアス(株)、(株)おとうふ工房いしかわ、(株)小樹屋、(一社)循環資源再生利用ネットワーク、(株)大洋プラスチック工業所、(株)メニコン、トルムスイニシエイト(株)、(株)ハーツ、(株)FabCafe Nagoya、三井化学(株)、金城学院大学、岡崎市、蒲郡市
<アドバイザー> 金城学院大学 生活環境学部 教授 弓立順子
<オブザーバー> 三井住友信託銀行(株)、経済産業省中部経済産業局、環境省中部地方環境事務所 (※2024年3月18日現在)



【2 現状と課題】

2050年カーボンニュートラルに向け、世界的に石油資源からの脱却が求められている。国内においても、プラスチック資源循環戦略では3R+Renewableの基本原則に基づき、プラスチック原料・製品を再生可能資源へ切り替えるとする等、より持続可能性の高いバイオプラへの切替が求められている。また、バイオプラスチック導入ロードマップでも、2030年までに最大限(約200万トン)のバイオプラ導入を目指すとしているが、現状の普及状況は十分でなく、積極的なバイオプラ導入の推進が求められる。

【3 方針】

本PTでは、バイオプラ素材の更なる利用拡大に向け、様々なバイオマス原料を活用できる製造技術の確立や、地域のバイオマス素材を活用した製品の高付加価値化への取組を通して、持続可能な消費行動の拡大を目指す。

【4 取組とロードマップ】



愛知発ローカルSDGs達成プロジェクト 「地域のオリジナリティあふれるバイオマス複合プラスチック製品の開発と利用促進」

- 地域色あふれるバイオマス素材と新たな取組となるリサイクルプラスチックの活用による、地域のオリジナリティを生かした新規石油由来原料ゼロ化への挑戦
- 地方自治体や地域企業と共創したモノづくり、コトづくりを通じた、これまでなかった地域共生のあり方の創出
- バイオマス複合プラ製品の利用を通じたワンウェイプラスチックの削減による持続可能な社会の実現



1 アップサイクルによる製品化

○複合バイオマスタンブラーの開発
・バイオマス素材55%とリサイクルプラスチック45%を配合した原料化及び製品化の実施
・地域の様々なバイオマス素材の活用
・工場端材及びPETボトルキャップのリサイクルプラスチックの活用
・原料・製品の分析、検証
・地域での安定生産に向けた技術者の育成、金型や成形技術の習得

○設備整備
・製品(タンブラー)の製造設備の導入
・効率的な生産体制の構築

○他製品の開発
・新たなバイオマス素材の利用検討
・タンブラー以外の製品化の実証
・新たなリサイクルプラスチックの確保

○バイオマス複合プラ製品の循環利用
・ケミカル・マテリアルリサイクル技術を活用した再資源化に向けた検証
・PaaSやクラウド販売等による回収・リサイクル体制の検討

○幅広い製品分野での安定生産
・顧客ニーズに応えられる安定供給が可能な生産体制の拡充
・体系的な素材ごとの調達ルート整備
・DXを活用した調達・生産の効率化
・新たな製品の製造設備の導入

○利用システムの確立
・リサイクル設備の整備
・複合プラ製品の100%リサイクルによる持続的循環モデルの構築

2 地域に根付いた生産・利用体制の構築

○素材提供者・利用者の確保
・バイオマス原料調達に向けたヒアリング
・製品のトレーサビリティの確保

○プロジェクト協力者の確保
・製品の活用に向けたニーズ・シーズ調査

○利用先・販路の確保
・協力者からパートナーへのシフト
・トレーサビリティ管理システムの検討
・LCAを通じた資源削減量、CO2削減効果の見える化
・オフィスや公的施設での活用の検討

○ローカル利用モデルの他地域への展開
・新たなパートナーの開拓、ニーズに応える生産体制の構築
・対象地域・素材に応じた販売ルートの整備
・市町村や地域企業、大学等との連携による地域のPRにつながる利用モデルやストーリーの提案

3 使い捨て環境を変革する県民への普及啓発

○製品PR
・PR用ロゴマークの作成、活用方法の検討
・製造工程と製品メリットを伝えるPRの検討

○製品の広報、アピール
・企業と自治体が連携した記者発表
・地域イベントとの調整

○戦略的な広報による県内への広がり
・次代を担う若者世代と連携した製品開発
・地域イベントへの参加、PR動画の制作

サステナブルな社会の実現へ

(参考)バイオプラ製品について

地域のバイオマス素材を活用したバイオマスプラスチック(※)による製品化の例



※原料として植物などの再生可能な有機資源を使用するプラスチック素材(プラスチック資源循環戦略より)

【5 経営戦略・事業戦略の明確化】

- ・サーキュラーエコノミーの観点を踏まえた経営戦略・事業戦略の策定
- ・廃棄物処理事業からリソーシング事業への拡大を図る事業計画の策定
- ・策定した戦略や計画に関する社内周知、社外発信

